

小盛山古墳 発掘調査現場公開資料

令和8年6月29日～7月3日

於・小盛山古墳（発掘調査現場）

岡山市教育委員会・岡山市埋蔵文化財センター

〇はじめに

岡山市教育委員会では、小盛山古墳の範囲確認調査を5月中旬より進めており、この度、確認された遺構および遺物を一般に公開するはこびとなりました。今回の発掘調査では、墳丘と造り出しに調査区を設定し、墳丘の規模や構造の解明を目指しました。調査の結果、墳丘の段構造の一端を把握したほか、造り出し部で葺石を確認しました。

〇小盛山古墳の概要

小盛山古墳は、全長約100mを測る造り出し付き円墳です。4世紀後半に築造されたと考えられており、円墳としては、全国最大級の規模を誇ります。

当古墳は、昭和53年に、周辺の池の改修に伴い、造り出しから採土し、一部はブルドーザーが入るといった事態が発生しました。この際、造り出し上に円筒埴輪列があったことが確認されています。また、墳頂部では、果樹園開墾時に鉄刀・鉄剣が見つかったと伝わっています。

これまで発掘調査は行われておらず、その正確な規模や時期については不明な点が多い状態にありました。そこで、岡山市教育委員会は、本市が提唱する「新たな倭国論」の検証を目的とした、未指定古墳の実態解明において令和8年度から発掘調査を開始しました。

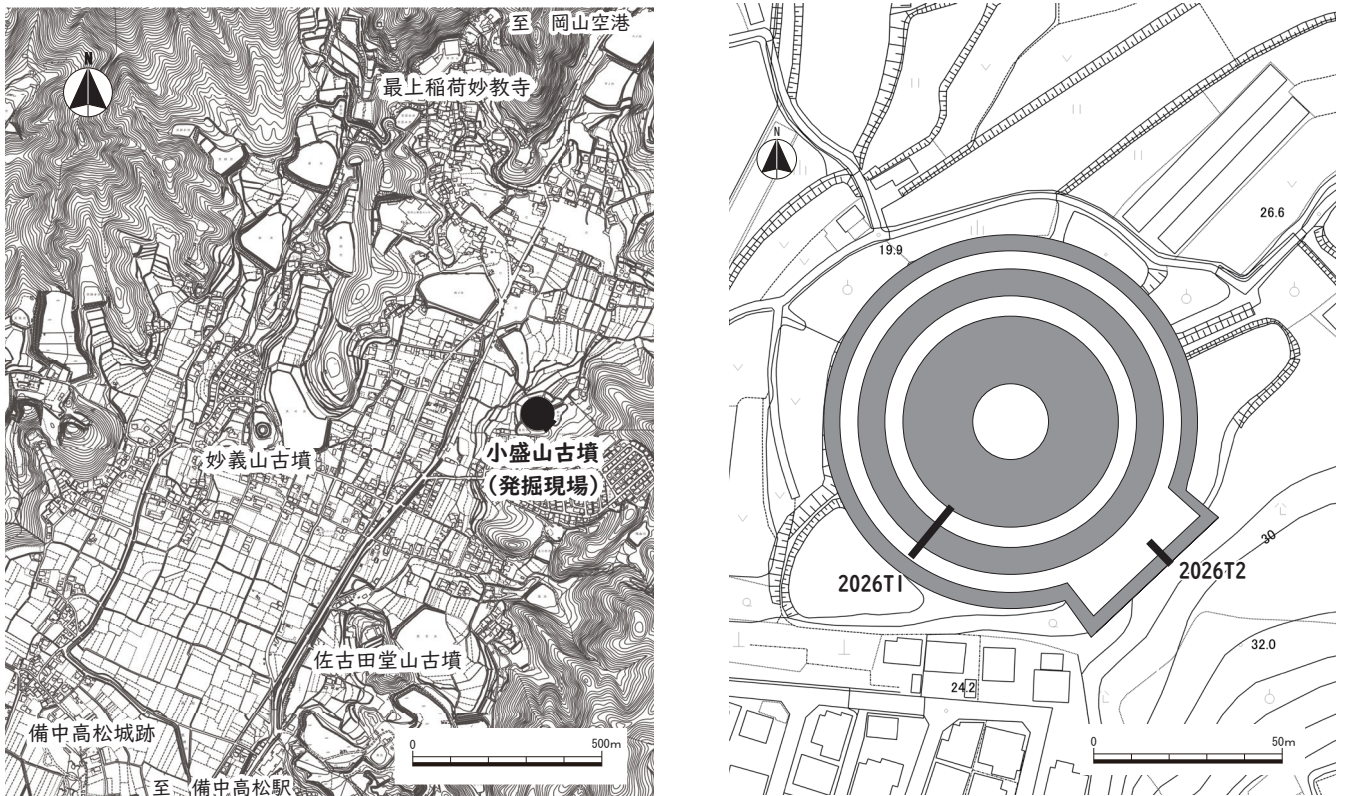


図1 小盛山古墳と周辺の古墳・トレンチ配置図

○ T1

T1は円丘部南西側に設定したトレンチです。円丘部は過去に桃や大根、牛蒡等を育てていたようです。今年度は1段目平坦面から3段目斜面にかけて調査をおこなっており、古墳に関する遺構としては2段目斜面の葺石が確認できました。葺石は主に花崗岩や安山岩で構成されており、基底石から5～6段分が残存していました。基底石は40cm程度の石材で構成されており、長辺を横に向ける意識が見て取れます。基底石付近を中心に埴輪片が出土しています。元々は2段目平坦面に据えられていたものが、転落し1段目平坦面付近に溜まったものと考えられます。その他の地点、葺石より上部の斜面は後世の改変により残っておりませんでした。また、2段目平坦面や3段目斜面も同様に削平されており、築造当時の高さや斜面の角度等は分かりません。また、1段目の平坦面はトレンチ外まで続きますが、1段目斜面と墳端については溜池を造成した際に削られており残っていないと考えられます。

各地点で土層の状況を確認するために設定したサブトレンチでは元の丘陵部分である地山や盛土を確認することができました。

築造当時の状態が残っていない部分もありましたが、墳丘の形態や構造を理解する上では大きな成果がありました。今後も墳丘の形態を追及すべく調査を続ける必要があります。

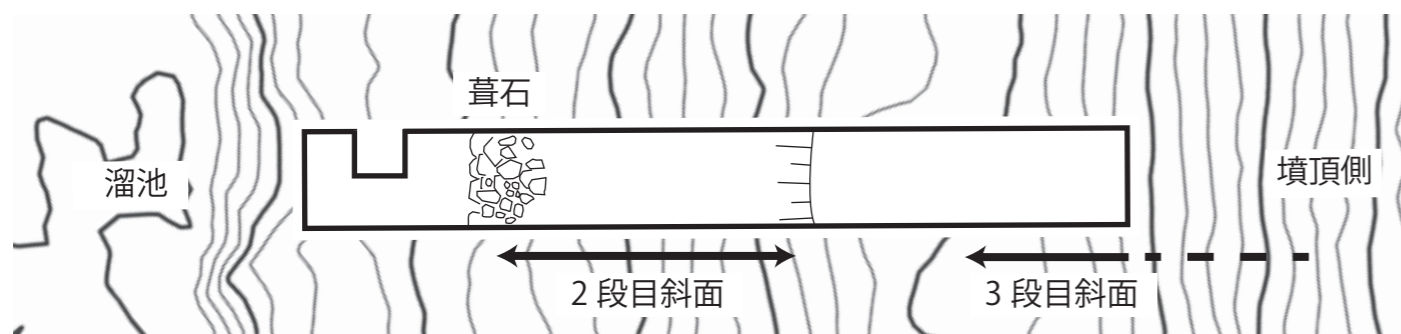


図3 T1 模式図



図2 小盛山古墳の墳丘測量図とトレンチ配置

○ T2

T2は造り出しに設定したトレンチです。造り出し部は過去に重機による土採り等が行われ、墳丘が大きく削り取られていることが現況からも分かります。トレンチは最も標高の高い地点が残存状況がよいと考え設定しました。

平坦部にあたる面は流土直下で元の丘陵部分にあたる地山を確認しました。結果として、築造当時の造り出しの平坦面は残存していないことが分かりました。

斜面部では葺石を確認することができませんでした。葺石はT1と同様に10～40cm程度の花崗岩や安山岩を使用しています。また、斜面の一番下にあたる基底石も確認できました。この地点が造り出しの墳端に当たると考えられます。これにより、小盛山古墳の墳長や墳形に関する重要なデータを得ることができました。斜面やその外部からは埴輪片が見つっています。これらの埴輪はもともと造り出しに据えられていたものが風化等で割れて転落したと考えられます。

今後はこの墳丘の外側がどのようなになっているのか、南西に続く丘陵部分との関係はどうか追及する必要があります。また、造り出しは一般的に祭祀のための施設と考えられていますが小盛山古墳では現在詳細が不明なため今後も調査を継続していく必要があります。

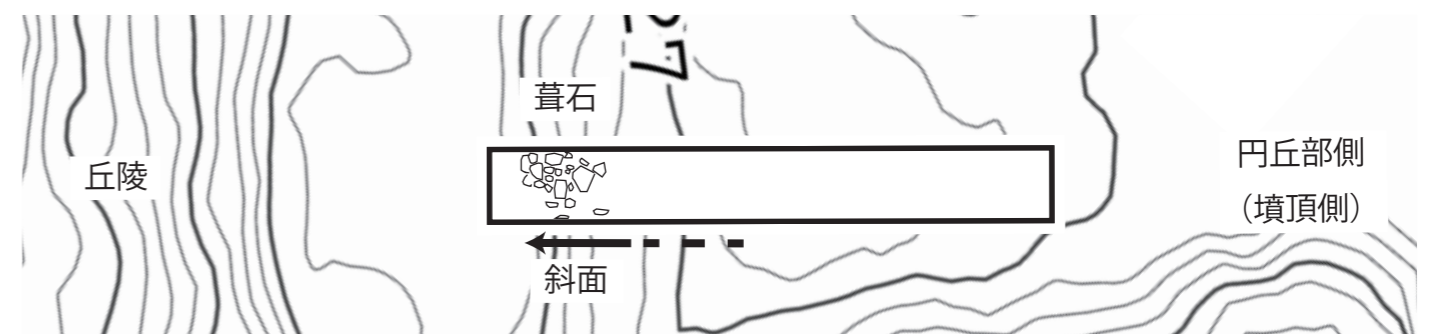


図4 T2 模式図

○出土遺物

今回の調査では各トレンチで埴輪片等の出土がありました。出土量は全体で2箱分です。

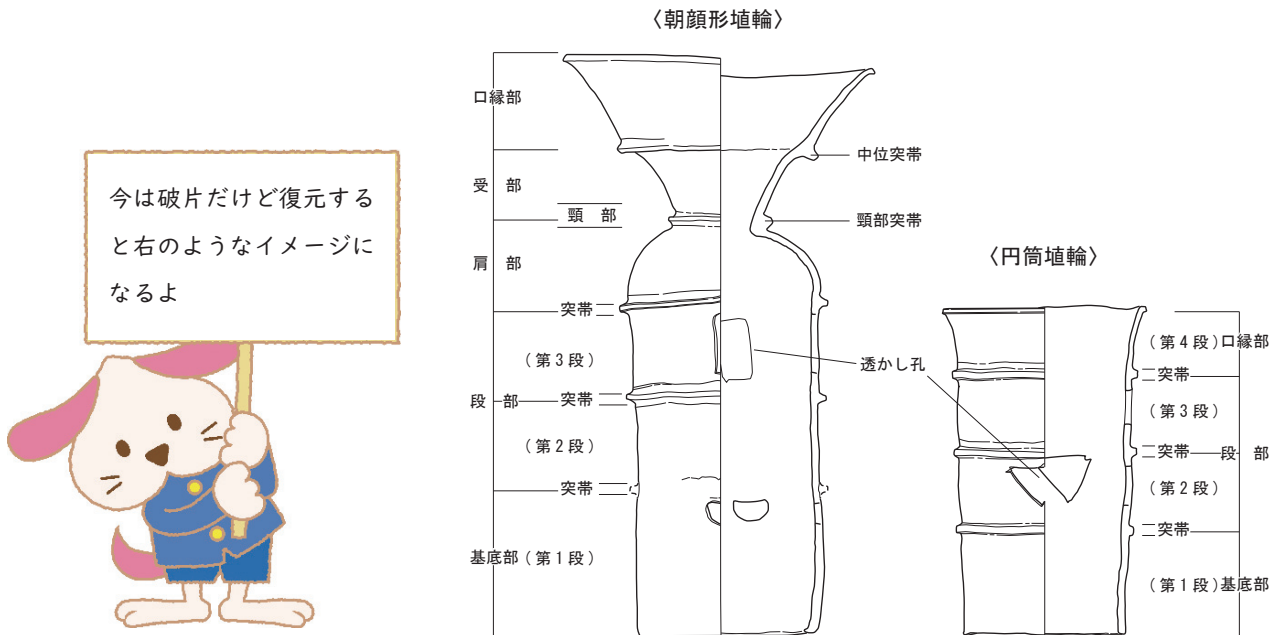
《 T1 》

T1 で出土した埴輪は主に円筒埴輪と朝顔形埴輪からなります。全形や底部の高さ、突帯間の距離が分かる個体がないため詳細な情報は分かりません。破片資料から胴部の透かし孔は円形であったと考えられます。焼成については、器壁が広く黒化するものがあり、野焼きされたことがわかります。残念ながら形象埴輪と確定できる個体はありませんでした。また、2段目平坦面付近からは土師器の破片が見つかり、墳頂祭祀に使用された可能性があります。いずれも本来の位置から離れた状態で見つかりました。

《 T2 》

T2 でも埴輪が見つかり、円筒埴輪と朝顔形埴輪のみが確認できました。こちらもT1と同様で全形や底部の高さが分かる個体はありませんでした。

小盛山古墳の埴輪の特徴として、一部の個体の胎土が粗いことが挙げられます。1～2mm程度の長石や石英といった鉱物が多く含まれていることが確認できます。周辺の古墳等では見られない胎土であると指摘できます。



岡山市教育委員会広報専門官「こらぼん♪」

図5 各部埴輪の名称

○さいごに

小盛山古墳は、全国でも稀な全長約100mの大規模な円墳です。今年度、初めて発掘調査を実施し、墳丘構造や段築の状況の一端を掴むことができました。今回得たデータは墳丘の規模や形を復元する上で重要な成果と言えます。また、これまで報告された資料の少なかった埴輪についてもある程度確認することができました。これらの埴輪は今後、小盛山古墳の年代を考えるうえで重要な資料のひとつと言えます。岡山市教育委員会は未だ謎の多い小盛山古墳の実態解明に向けて今後も発掘調査を継続していきます。